

# 境町歴史民俗資料館だより 第5号

平成28年12月15日発行

境町歴史民俗資料館  
〒306-0431 茨城県猿島郡境町大字西泉田1326-1  
電話番号 0280-81-3353 FAX 0280-81-3354  
開館時間 通常 9:00～16:30  
休館日 毎週月曜／祝日／年末年始

## ～『津軽コギン刺し教室』の開催～

境町歴史民俗資料館体験講座



去る11月6日(日)に開催された境町民祭当日に境町歴史民俗資料館の体験講座として、当館学芸員の鳴瀬麻子先生を講師に迎え「津軽コギン刺し教室」を開催いたしました。

「津軽コギン刺し」は江戸時代に始まった技法で青森県津軽地方に伝わる麻布を使用した刺し子のことで、津軽地方の農民女性たちの手によって防寒と経済性ならびに装飾を兼ねて生み出された刺し子の一種です。

「コギン」とは小布や小巾のことを言い、短い単衣の仕事着のことを指し、全国的にも広く使われていました。こうした布に刺し子を施したことからコギン刺しと呼ばれるようになりました。

江戸時代に入り、少しずつ綿が普及しましたが、綿は一般庶民には贅沢品だったため、厳寒期の津軽地方では目の粗い麻を使い、麻布に刺し子を施すことで布の保温や補強をしたのです。初めのうちは、粗い目を埋めるように直線に縫っていましたが、目を飛ばすことにより、刺した糸目が浮き立つ模様となっていました。

18世紀末頃になると、蝦夷地や東北の産物を西廻り航路(日本海コース)で大坂などに輸送する北前船が青森にも就航するようになり、大坂などから木綿糸が入ってくるようになり コギン刺しは江戸時代の末期には最盛期を迎えました。

やがて、コギン刺しは農閑期の女性の仕事として代々母から娘へと口伝で受け継がれていくうちに装飾性が高められ競って美しく刺すようになっていき、現在でもキットが販売されるなど秘かなブームとなっています。

(裏面に続く)

## 今回の体験講座開催の経緯

現在、境町歴史民俗資料館は、今年度から日本学術振興会の科学研究事業(基盤研究)の一つ「大学と地域社会の連携による生涯学習拠点としての地域の博物館再生の実践研究」の場として利用されています。

今回の体験講座企画は、明治大学文学部教授の吉田優研究室が主体となって、大妻女子大学博物館ならびに境町歴史民俗資料館を研究施設とした科学研究の一事業として開催されたものです。

この事業は近年機能が低下している地域の自治体の博物館を活性化していく試みで、地元境町の歴史民俗資料館ボランティアの方々が専門の当館学芸員や大学教授の指導や助言を得ながら、資料館運営を修得し、地元の小中学校に出前講座に出向いたり、地域の皆様が気軽に立ち寄れる資料館運営に携わったり、学芸員志望者が学芸員実習を体験できる場として歴史民俗資料館を活用してもらうことによって、貴重な史料や文化財が豊富に所蔵されている境町歴史民俗資料館の活性化を図るために行われているものです。

この研究をすすめるため今年度から境町にも学芸員が配置されています。

小野 昌嗣 明治大学兼任講師

鳴瀬 麻子 大妻女子大学博物館助手(一級和裁技能士)

また、この事業に参加する「境町歴史民俗資料館運営ボランティア」を募集したところ、11名の方から参加の申し込みがありました。

「境町歴史民俗資料館運営ボランティア」にご興味のある方は境町歴史民俗資料館までご連絡ください。

境町歴史民俗資料館  
境町大字西泉田 1326-1  
TEL 0280-81-3353  
担当 野村正昭